

夏空に笑顔！ いたてっ子夏祭り



子ども達の夏の思い出

8月19日、今年の春に村内で再開した村立学校の敷地内で、いたてっ子夏祭りが開かれ、参加した夏休み中の子も達が笑顔を見せていました。この夏祭りは、震災後から「子ども達を笑顔にしたい」と保護者らが計画、運営しているもので、村内で開催したのは今回が初めてです。

この日は、前庭に設置された大きな桶を使った流しそうめんや射的などで、約350人の親子が夏の一日を楽しみました。また、卒業生や村外の学校に通学している子ども達も訪れ、村での久しぶりの再会を喜び合う姿も見られました。

齋藤真愛ちゃん(子ども園3歳児)は「流しそうめんがおいしかった」と満面の笑顔。星貴弘飯館中PTA会長は「村に戻って初めての夏祭り、たくさんの方が来てくれた。本当にうれしい」と充実した表情を見せていました。

夏祭りを楽しんでいた子ども達をご紹介します



GO! 東京オリンピック 飯館村×ラオス



飯館中生、学ぶ オリンピック精神「友情、卓越、勇気」



国籍、世代を越えた「絆」が誕生しました

8月6日、飯館中学校で、筑波大学院生や上智大生、オランダ、南アフリカからの留学生との交流を通してオリンピック精神を学ぶ特別授業が行われました。この授業は、東京オリンピックへの機運を高めようと、国内外で筑波大学が取り組んでいるもので、国内では、村と岩手県陸前高田市で実施しています。



腕の中に背中から倒れ込み、「勇気」を体験!



東京オリンピック ホストタウンサミット



飯館中の生徒らはラオスとの交流のアイデアを探りました

8月8日、「ホストタウンサミット in 飯館」が開催されました。この事業は飯館中学校で「復興ありがとうホストタウン」などに認定されている市町村の中学生らがホストタウン事業の活用について、話し合うものです。この日は、新潟県五泉中学校が来校、岩手県野田中学校がインターネット電話で参加し、各学校の取り組みについて情報交換を行いました。

参加した生徒達が「中学生がホストタウン事業に積極的にかかわることで、地域を盛り上げられる」など活発な意見交換を行う場面が見られました。